

平成30年 **1 2** 月の**思いやり**通信

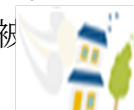
目次

- (1)  太陽光パネル設置厳しく 台風で飛ばされ、豪雨で崩落
 - (2)  再生エネ、災害に強く 蓄電池活躍 風圧・漏電対策も
 - (3)  オゾン層 2060年代に回復 国連予測
 - (4)  家庭の太陽光 EVでイオンへ
 - (5)  洋上風力、普及へ関門 東電、銚子沖で調査
-  エコライフ — 結露について

(1) 太陽光パネル設置厳しく 台風で飛ばされ、豪雨で崩落

神戸市、地盤など審査 条例提出へ 破損後も発電、感電注意

- ・太陽光パネルが豪雨や台風で破損する被害が相次いでいます。
- ・2018年は、少なくとも全国で約40カ所の太陽光発電所が被災。
- ・強風などに対する弱さが浮き彫り。
- ・50キロワット未満は、国への事故の報告義務がなく全容は不明。
- ・経済産業省は10月に基準を見直し、従来より最大2.3倍の風圧に耐えられる能力を求めました。
- ・神戸市は、政令指定都市で初の太陽光パネル設置規制条例案を12月議会に提出する方針。



※破損した太陽光パネルを取り扱う場合の注意点

感電防止のため、ゴム手袋やゴム長靴を着用
発電しないように表面を下にするかシートなどで覆う
雨や雪の日は作業を行わない
ケーブルが切れているなど、危険な場合は専門業者の指示を受ける
路上に落ちた場合は、通行人が触らないように囲いを設ける
災害で破損した場合は、処理方法を自治体に問い合わせる

(2018年11月1日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

“たろうの店きごころ”

山忠木材株式会社

大阪市大正区千島3-18-9 TEL 06-6552-0781



(2) 再生エネ、災害に強く 蓄電池活躍 風圧・漏電対策も

- ・再生エネルギーの電気を電力会社が買い取る制度（F I T）が 2012 年に始まってから、新たに発電を始めた設備は小規模な太陽光発電を中心に急増。
- ・計 4000 万ワット超に達し、2016 年委には水力も含め再生エネルギーは発電量全体の約 15%を占めました。
- ・電力網では、発電する量と消費する量のバランスをうまく取らないと停電してしまいます。
- ・安全性に優れ寿命の長い蓄電池がいろいろ開発されてきましたが、広く導入するためには安価な蓄電池が欠かせません。

（2018 年 11 月 4 日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



(3) オゾン層 2060 年代に回復 国連予測

フロン規制が奏功

- ・世界気象機関（WMO）と国連環境計画（U N E P）は、一時破壊が進んだ大気中のオゾン層が 2060 年代には地球全体で 1980 年の水準まで回復すると予測。
- ・オゾン層には有害な紫外線を遮る効果があります。
- ・国際条約「モントリオール議定書」による破壊物質フロンの規制が奏功。
- ・成層圏上部のオゾンは両極地方を除き 2000 年以降、10 年ごとに 1~3%増加。
- ・北半球の中緯度地域では、2030 年代までに 1980 年の水準まで完全に回復。
- ・南半球の中緯度地域でも 2050 年代には回復。
- ・破壊が最も進んだ両極地方でもオゾン量は増加していて、2060 年代には回復すると予想。
- ・南極上空でオゾン層が極端に薄くなって穴が開いたような状態になる「オゾンホール」が、2000 年を境に縮小していたことが初めて確認されました。
- ・フロンの一種「C F C 1 1」が 2012 年以降、東アジアで放出されていると指摘。

（2018 年 11 月 6 日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



(4) 家庭の太陽光 EVでイオンへ

関電と協力、固定価格後の受け皿に

- ・イオンと関西電力は、2019 年度にも家庭の太陽光発電で作った電力を店舗で使う仕組みづくりに乗り出します。
- ・消費者は電気自動車（EV）に電力をためてイオンの店舗に運び、買い物ポイントと交換します。
- ・太陽光の電力を高く買い取る仕組みは 2019 年から 10 年間の期限が切れ始めます。

（2018 年 11 月 9 日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



(5) 洋上風力、普及へ関門 東電、銚子沖で調査

- ・世界の再生可能エネルギーで最も伸びている洋上風力を事業化する動きが、日本で本格的に始まりました。
- ・本格的な普及にはコスト、規制、送電線という 3 つの課題を克服する必要。
- ・日本は 2010 年から普及が進んだ欧州と比べて導入そのものが遅れています。
- ・政府は、発電量に占める風力の割合を 2030 年度に 1.7%と、2017 年度の 3 倍弱に引き上げる計画。既に 5%を超える太陽光に次ぐ存在に育てる考え。

コスト 欧州の 1.5 倍

- ・日本での建設費は欧州より 1.5 倍かかるとの試算。
- ・遠浅が少ない日本は適地が限られます。
- ・海上に浮かべる「浮体式」を採用すると費用はさらに膨らみます。

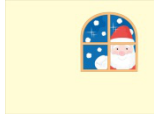
法制度 確立に遅れ

送電線 容量足りず

- ・地域間の送電線の連携が脆弱です。

（2018 年 11 月 23 日 日本経済新聞記事から抜粋引用）





エコライフ — 結露について

・有害なカビや菌の発生を抑え、家を長持ちさせるためにも、なるべく結露が起こらないように注意を。

・結露は「表面結露」と「内部結露」の2種類。

表面結露

・窓ガラスや壁、窓枠のサッシなどの表面に露がつくこと。

・断熱性が低く、外の冷たい空気に冷やされた窓ガラスやサッシの表面に、室内の暖められた空気が触れて結露が発生。

・防ぐには、「断熱性の高い窓にする」「除湿をする」「換気に気を付ける」などの方法。

・冬は乾燥しやすいので、ある程度の湿度は必要。

・家自体の断熱性能を高めるのがベスト。

・タンスなどの家具や押入れにも結露は起こります。

・発生しやすくなるのは、壁に面した場所にピッタリ付けて置いている場合。

・家具の下にすのこを敷いたり、脚を付けて空気が回るようにしておくことで防ぎます。

内部結露

・壁の中で起こる結露。

・柱や梁などを腐らせたり、カビを生じさせる原因に。

・原因は室内から外側へ向けて抜けていく湿気で、この湿った空気が壁に入り込むことで内側に結露が誘発されます。

・対策は室内からの湿気を壁の中に入れないこと。

・繊維系の断熱材は湿気を通しやすく、湿気自体を含みやすいため、室内側に防湿フィルムを貼って対策することがお勧め。

(高垣吾朗氏著「夢を叶える家づくり」より引用・抜粋)



テーマは「**思いやり**」 エコライフについて考えます。

思いやり通信 NO. 5

